

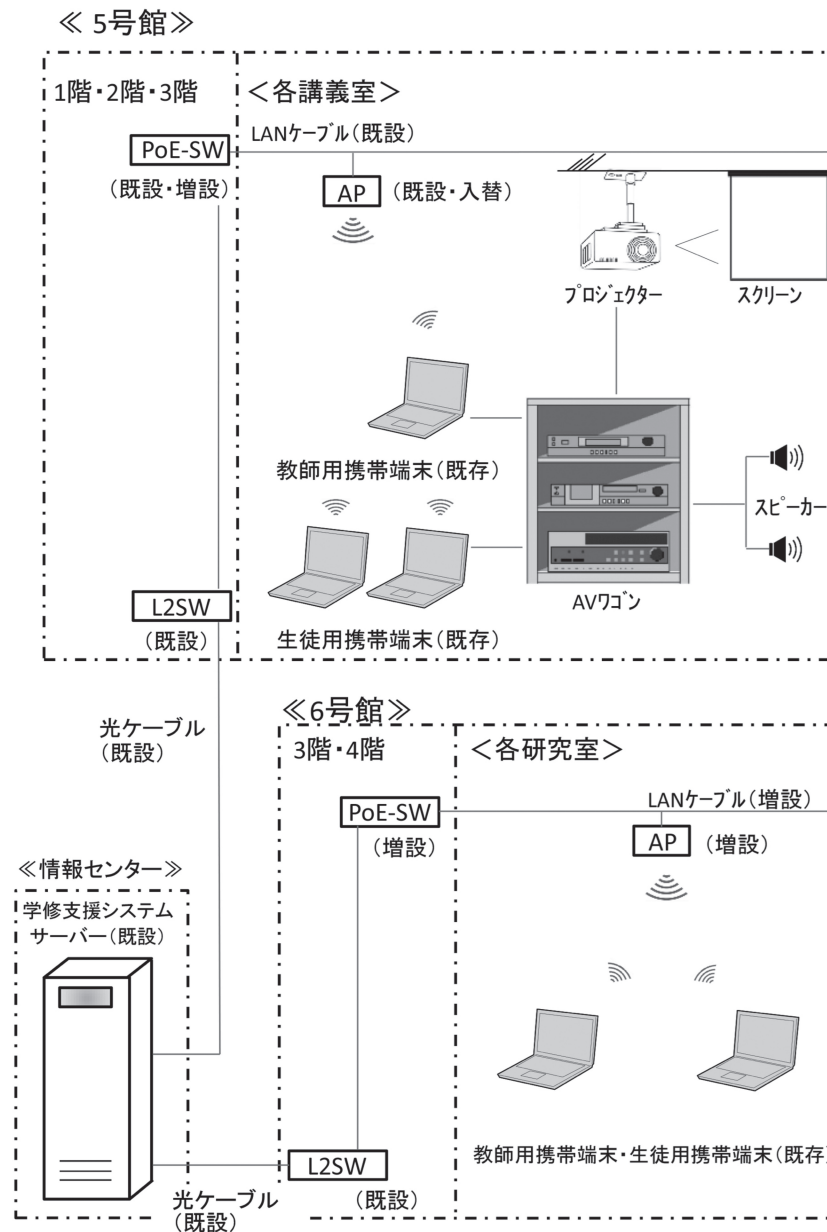
Ⅲ. 平成27年度「私立大学等教育研究施設整備費補助」

1. ICT活用推進事業

「双方向型授業の充実とオフィスアワーの積極的な活用に向けたICT環境の整備」

松本大学 柴田 幸一・石川 大輔

1) 事業の概要(イメージ図)



2) 取組内容

①趣旨・目的

本学においては、全学的にカリキュラム・マップやナビゲーションにより、学生に対して学修のためのロードマップを示している。さらに、ディプロマ・ポリシーとの関係性や授業外学修について明示したシラバスを

全学挙げて構築してきた。これらの活動を踏まえた次のステップとして、学生の学修到達度とその成果を重視する教育の推進を標榜している。そのためには、教える側(教員)と教わる側(学生)の双方が噛み合ったことを実感できるような双方向型授業のための環境整備と手法が不可欠である。これらを背景とし、全

学的教学マネジメントの下に、学内のICTを活用した教育環境を強化することにより、授業を中心とする教育の質的転換を推進しつつ、さらにオフィスアワーを有効に活用しながら、授業と授業外の指導の有機的な結合を促進していく。

具体的には、教室内に配置しているプロジェクタや映像制御装置等の機器およびPCの接続方式を現況のアナログタイプからデジタルタイプに変更し、ICT環境の高度化を進める。さらに、現在、1授業単位で全学生が一斉にWebにアクセスすることが困難な状況にあるため、アクセス・ポイントを増設することで無線LAN環境を強化し、学生のスムーズなWeb接続環境を確保する。教室内では、有効な教材の提示に活用するほか、クリッカーの活用度等を高めていく。また、教員の研究室回りにもアクセス・ポイントを増設し、オフィス・アワー時における個々の学生に対する指導の際に、Web上の授業用資料を有効に活用できる環境を整備する。

②期待される教育効果

- ・ 教室内のICT環境を高度化することで、授業用コンテンツの幅を各段に拡大（課題レポートの模範例や教員のコメントの効率的な提示等）することができ、学生の授業内容の深い理解を促進すると同時に、教員の教授法の工夫に対する取組をFD活動に繋げていくことができる。
- ・ 個々の授業においてクリッカーを有効に活用できる環境を整備することで、リアルタイムに学生が理解しにくい点を把握しながら双方向型授業を展開することができ、シラバスに示した学修到達目標に向けた分かりやすい授業により、単位の実質化に繋げることができる。
- ・ 全学的に学生に周知しているオフィスアワーにおいて、学内LAN環境を活用し授業の振り返りをしながら、個々の学生や小集団との質疑応答を進めることは、授業の理解を促進するのみならず、教員と学生のコミュニケーションの双方向性を高めることに繋がって行く。

3) 申請を計画するICT活用推進事業と「1 取組内容」との関連性・必要性

①取組内容との関連性

高機能な携帯端末の普及、教材として活用する映像コンテンツの高水準なデジタル化等を含め、教育を取り巻くICT環境は大きく変化してきている。本学の従来のICT設備では、最新の携帯端末を活用した授業の展開やデジタルコンテンツ活用のニーズに

十分な対応ができない状況にある。

本事業を実施することは、学生の学修効果を高めるためのデジタルコンテンツを駆使した分かりやすい授業展開、教員と学生間の双方向性の向上を確保するために不可欠である。

②どの施設においてどのように活用するのか

本学の講義棟である5号館に配置された16教室に、デジタルコンテンツに対応したプロジェクタや映像制御装置を含む周辺機器を整備し、授業の質と教授法を向上させつつ、学生の学修到達度とその成果を重視する教育を全学的に推進するために活用する。

また、本学の講義棟である5号館、6号館に配置する研究室周りの無線LAN環境を強化（更新および増設）し、正課授業とオフィスアワーを通じて、教員と学生の双方向性を向上させるために活用し、教育の活性化を推進する。